

(様式第4号)

## 第1回 塩田地域協議会 会議概要

1 審議会名	塩田地域協議会
2 日時	令和元年5月16日(木)午後1時30分から午後3時まで
3 会場	塩田解放会館(塩田公民館)大ホール
4 出席者	山極 一雄 会長、山部 健壽 副会長 浅川 司 委員、阿部 ふさ子 委員、荒川 玲子 委員、安藤 健二 委員、 伊藤 準一 委員、尾崎 孝子 委員、工藤 勇 委員、工藤 れい子 委員、 神津 和夫 委員、小林 寿美男 委員、竹内 弘子 委員、龍野 藤人 委員、 中村 佳津枝 委員、早坂 みどり 委員、林 千尋 委員、宮澤 郁夫 委員、 若林 ひとみ 委員 (欠席者)坂田 忠則 委員
5 市側出席者	上田市 塩田地域自治センター 小林 弘明 塩田地域センター長、酒井 重雄 塩田地域振興政策幹、 池田 昌彦 庶務企画係長、岩倉 光男 主査 上田市 交通政策課 竹内 繁弘 課長、山田 晃一 課長補佐、峯村 祐太 主任、山川 美輝央 主事 事業者 上田バス
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	無 記者 無
8 会議概要作成年月日	令和元年 月 日

協 議 事 項 等

### 1 開 会 (副会長)

### 2 あいさつ (会長)

### 3 報告事項

#### (1) 運賃低減バス実証運行の検証と今後の方針についての報告・説明

交通政策課より説明後、質疑を行う。

(委員) 今回のテーマとは外れるが、別所温泉地区は公共交通について言うと駅周辺は便利だが別所温泉地区はかなり奥行きがあり、現在のバス停は別所温泉地区の入口止まりになっている。傾斜地でもあるので以前のように石湯や大湯まで路線を伸ばし、別所温泉地区の集落を回るように検討してもらいたい。

(担当課) 細い道もあるので地域としてどういうバスがいいのか、あるいはタクシーを使った方がいいのか、地域・行政・事業者の合意を得て実施できればと考えている。バス路線については設置するとすぐ廃止はできないので、特に地域の需ををよく確認したい。

別所温泉地区については旅館組合で宿泊者向けのバス『くるとバス』を運行しているが、それ以外の観光客や地域住民向けのバスはないと聞いているので、このような地域の実態あるいは要望をこういう場を含め地域住民と情報交換をして確認し、今後の施策に活かしていきたい。

例えば豊殿地区は周遊バスを運行しているが、構想期間で何年もかかり何十回も研究を重ねて平成18年に運行を開始した。週2回の運行で予算は250万円で、豊殿地区の住民約1,400戸から年1,000円の負担金を徴収し一回200円の乗車賃、ここ

に上田市補助80万円を支出している。行政ですべての場所に公共交通を充実させることができない以上、地域の要望についてこのような解決方法もある。

(委員) 別所温泉地区のタクシーについては、昔はタクシー会社の営業所が別所温泉駅の近くにあったが撤退してしまった。運賃低減もありがたいが利便性も検討していただきたい。

(委員) 自動車運転免許証を自主返納するとタクシーの補助券をもらえるが、500円のタクシー補助券は使いづらい。そのためもらった券を使い切れず。また、公共交通が必要だという声は多いが利用は少ないということが往々にしてある。当初は需要があっても年月が経つと需要が減っていくこともあるので廃線はやむを得ないと思われる。

(担当課) 自動車運転免許証の自主返納に対してのタクシー補助券の配布は、平成29・30年度と実施してきて、それぞれ300名ずつの申請者がおり、補助券を満額使用するとそれぞれ300万円ずつ予算が執行される。だが平成29年度は50万円程度、平成30年度は100万円程度の執行ということで、おっしゃるとおり補助券をすべて使い切る人は少ないのが現状である。開始したばかりの制度であるが検討課題として認識している。

(委員) 先ほどの豊殿地域の周遊バスの地元負担についてお聞かせ願いたい。

(担当課) 豊殿地区の住民約1,400戸から年間1,000円の負担金を徴収しこれで約140万円、一回200円の運賃収入、それから上田市補助80万円を加えて250万円の予算で事業を実施している。最初のうちはかなりの利用があったが、人の動きもあるので状況は変わってきている。

(委員) 豊殿地区は1,400戸で別所温泉地区は400~500戸程度、負担金を2,000円や3,000円にすれば、負担金といっても年間だし80万円の補助があれば不可能ではなさそうだ。また地元でも検討したい。

(委員) オレンジバスは、一便あたりの利用者数を見るとあれだけの大きさのバスが必要なのか、もっと小型のバスにしたらどうか。燃料費とかの問題もあるし、大型特殊の免許証を持っている人も高齢化してきて運転手自体の確保も難しくなるのではないかと。

(担当課) オレンジバスは、市有のバスの中では利用者数が多く平均20人弱の利用がある。バスの大きさについては考慮しなければならないが、オレンジバスの車体については以前市で購入してしまったものであるため、すぐに変更することは難しい。ただし、事業者からが運行しているバス路線については、車体の大きさも考慮しなければならない。

(事業者) 塩田地区のオレンジバスの利用状況について申し上げますと、週に2回東塩田コースと西塩田コースを運行している。共に上田駅経由で高齢者福祉センターまで一日一往復運行している。西塩田コースの利用が比較的多く、上田原辺りを過ぎると34~35人の座席が満席になって立ち乗りの人も出てくる場合もある。これ以上車体を大きくするのも費用や道路状況の面から難しい。

(委員) わかりました。本数が少ないのでどうしても利用者が集中してしまう面もあると思うので、本数が増えれば変わるのではないかと。

(事業者) それについては事業者、上田市、公共交通活性化協議会の三者で検討する余地はある。

(委員)これから自動車運転免許証を持たない人が増えるし、オレンジバスの利用者も多く廃止されると困るのでよろしくお願ひしたい。

(担当課)資料にもあるが、今後新たな代替の手段を確保する場合にあたっては、地域を含め「関係する方々の全員が地域公共交通の共同経営者である」という考え方でお願ひしたい。今全国的にもバス運転手の確保が難しい状況であり、その上目的地から目的地に決まった人を運ぶだけの観光バスに比べると、不特定多数を相手にして多くの停留所に停車する路線バスは給与も低く運転手の負担が大きい。このような中で便数を増やしたりきめ細かな対応を行ったりするのは厳しいので、どのような公共交通がよいのか地域、事業者、行政と三者で知恵を絞って検討していきたい。

(委員)武石のデマンド交通について説明してもらいたい。

(担当課)武石地域自治センターで実施しているので詳細は分からないが概略のみ述べると、平日毎日運航しておりジャンボタクシー2台で予約を受けて、ドアツードアで1回3000円の利用料金を設定している。また、地域の要望により丸子の腰越地区や大屋駅まで運行を拡充し、大屋駅までは6000円の利用料金となっている。このデマンド交通事業は合併直前に開始し、年間の予算は1,400万円となっている。

(委員)乗り降りする場所は決められた場所なのか。

(担当課)武石地域と腰越地域については予約状況によりフリーエリアとなっている。

(委員)このデマンド交通の運転手をやっている友達がいるが、週の休みが土、日、月の勤務状態である。運転手の労働条件について上田市は把握しているか。

(担当課)運転手の労働条件について上田市は把握していない。バス事業者は1日あたりの常務時間数を制限している。

(委員)運転手の労働条件についても上田市の方で把握しておかないと、万が一の事故の時に上田市も責任を問われると思うので把握しておいた方がいいのではないか。

(委員)武石の事例は塩田でもできないか、経費は運営に要する経費が1,400万で上田市の補助や地域負担はどのくらいか。

(担当課)上田市の予算は1,380万円、ここに運賃収入を加えるので事業費はもう少し増える。

(委員)各戸負担はないのか。

(担当課)各戸負担はない。

(委員)自動車運転免許証自主返納の際のタクシー補助券については、1回1万円限りではなく、できれば継続しての補助をお願ひしたい。費用が掛かるので無理なことは承知しているが検討してもらいたい。

(担当課)自動車運転免許証を自主返納した方だけ補助するのがいいのか、一定年齢以上に補助をするのがいいのか、色々な方法があるので考慮に入れておきたい。ただ、自動車運転免許証自主返納に対する補助制度自体がまだ始まって2年であるので、大きな変更をすぐ

行うのは難しい。

(委員) 運賃低減バスは路線バスに対して上田市が補助を出すという制度だが、そもそも路線バスというのは事業者が決めた路線に対してなのか、事業者と行政が研究して決めた路線に対してなのか。この運賃低減バス制度が始まる以前からの路線のみが対象なのか、その後に設置された路線も対象に含まれるのか、それが1点。あと市営バスというのがあるがこれはどういう考え方で運行されているものなのか、これが1点。以上2点について説明をお願いしたい。

(担当課) 路線バスについては基本的には事業者が自主的に運行するものとして始まった経過がある。バスとしての幹線が市町村を結ぶもの、そこから外れた地区について必要な部分は市営バスが運行している。

(委員) 路線バス自体が今の時間帯や本数でいいのか、ルートを延長した方がいいのかの研究は事業者任せなのか。上田市はそこに加わってこないのか。

(担当課) 公共交通について地域の希望について聞いたり、事業者のこれまでの対応経過を話したりということをして本来であればいいが、住民と行政と事業者で公共交通について懇談ができる場がなかなかない。地域ごとに対応している例もあり、たとえば真田地域では平成23年度に公共交通利用促進協議会という別組織を作って対応している。

(委員) 事業者は沿線住民に対するアンケート等は実施しているのか。

(事業者) アンケート等は実施していない。できるだけ地域住民の意見を取り入れているが、直接事業者に住民が意見を寄せるということ自体があまりない。地域住民の意見があれば、事業者、上田市、公共交通活性化協議会の三者が一体となって対応したい。

(委員) 事業者も努力はされているとは思いますが、開設しました、利用がありません、廃線しましたではなく、その前に沿線住民の意見や要望を聞いてそれらを満たしてもなお経営が厳しいのであれば仕方ないので、廃線の前にそういう努力をしてもらいたい。

(委員) 別所温泉は年間11万の観光客が来るが、旅館宿泊者は1日7便356日別所温泉駅から各旅館の玄関まで運行している『くるっとバス』が利用でき、年間14,000人の利用がある。だが、旅館宿泊をしない観光客は利用できず、観光客の中には別所温泉地区を周遊する元気のない方も見受けられるがどうにもできない。せっかくの観光客にお金を落としていただくような仕組みになっていない。『くるっとバス』についても旅館も2軒倒産し、厳しい運行状況についての解決策を観光課とも話し合っている。豊殿地区のやり方もいいが検討にかなり時間がかかるので、検討時間の短くて済む方法を模索している。

(担当課) 観光課と情報を共有しながら検討していく。

(委員) 以前路線バスに乗った際、乗り方について知らないことを感じた。あまり普段バスを使っていないので乗る経験がない。自動車運転免許証を自主返納する前に路線バスに乗る体験をするのもいいのではないかと。住民自治組織でも路線バスについて取り上げてはいるが、もっと力を入れる必要がある。

(委員) 長野市の循環バスは運転手が女性であり、本数も多いからか乗る人も多い。採算が取れ

ているかわからないが、そのような方法が取り入れられれば良い。

(担当課) 長野市も長野駅を起点に善光寺や市街地拠点を回る市営の循環バスを20年ほど運行しているが、この4月からは路線バスと重複していた長野駅から善光寺までは運行を取りやめた。このように路線バスと市営の循環バスの棲み分けが必要であり、現在も上田駅周辺や丸子地域は市営の循環バスが走っているが、今後検討の余地はある。

(委員) 子どもがバスに乗る機会がないので、学校教育などと連携して公共交通機関のマナーを学ぶことも含めて働きかけをしてほしい。

(担当課) 真田地域の公共交通利用促進協議会では、小さなお子さん向けにバスの乗り方教室を実施している。北小学校ではまちなかの循環バスを使いたいという申し込みもあった。行政から教育委員会や学校への投げかけを含め、子どもにバスに親しんでもらう取組もしていきたい。高校生には通学に利用することが多いので、バスの乗り方というチラシも含め中学3年生の時からPRをしている。先ほどの乗り方がわからないという件も含めて対応していきたい。

#### 4 その他

- ・事務局より塩田地域協議会だより第15号について
- ・事務局より第2回わがまち魅力アップ事業の募集について
- ・事務局より当面の塩田地域協議会の開会予定日について

#### 5 閉会(副会長)